

2月のはなし



本園は主体的な子どもを育てるために、遊びを大切にしています。

今回はそんな遊びについて考えていきましょう。

一人遊びはとても大切です。一人遊びを分類してみていきましょう。これは、私の経験からの分類です。

模倣遊び 電話をまねる。ファミレスの注文をまねる。お母さんの動きをまねる。赤ちゃんのお世話などよく見ていて、同じように人形のお世話をする。自分の心が動いたこと、興味を持ったことなどをまねてみる。

まねてみたい、やってみたいと思うことが大切で、模倣することで様々な経験をしているといえます。そして、模倣遊びをするには「好奇心」や「観察力」なども必要になってきます。

想像遊び 人形などを使って、自分のやりたいことをやらせる。線路に電車を走らせる。車を走らせる。猫になったり、犬になったり、いろいろなものに変身したりして、なりきって遊ぶ。

この時、頭の中ではいろいろなことを想像しています。年長になると「なりきる」ことが「役割をやる」に変化していきます。それまでの貴重な「なりきり」を十分に楽しんでほしいと思います。

知的好奇心の遊び 何かを作る。積み木、ブロックなどで遊ぶ。絵を描く。折り紙をする。砂で遊ぶ、水で遊ぶ。

砂や水の特性に気づいたり、どうしたらきれいにプリンが作れるか試したり、考えたりしています。繰り返し経験することで知識となって積み重なっていきます。いろいろな遊びが体験につながるとともに知的発達に必要であるといえます。

友達と遊ぶようになると、様々なトラブルに遭遇したり、困ったりすることも出てきます。そんなとき、友達と遊ぶことで我慢すること、自分の気持ちをどう伝えたら分かってもらえるかなどを学んでいきます。また、どこまでなら友達に許してもらえるかも分かってきます。そして、相手の気持ちに気づいたり、一緒に遊ぶ楽しさを味わったりします。友達と遊ぶことで「社会性」が芽生えてくるのです。

大人の遊びと違って「子どもの遊びは学びである」と言えます。子どもが遊んでいるときには心や頭や体が動いています。遊んでいるときにどんな思いでいるのかなと考えながら見てください。きっといろいろ見えてきますよ。

園長 宇佐美すみれ